

1 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(6)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(7)～(10)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていいねに書くこと。

- (1) 約束を守る。
- (2) 電池を並列につなぐ。
- (3) 雑誌を購入する。
- (4) 友人と銭湯に行く。
- (5) シャワーを浴びる。
- (6) 計画を実行に移す。
- (7) ごみをヒロウ。
- (8) 窓ガワの席に座る。
- (9) 動画の再生をテイシする。
- (10) 接戦の末にシヨウブがつく。

2 次の文章を、Tさんが書写の授業で書いた【下書き】と【清書】です。Tさんが書いた【清書】は【下書き】と比べて、どのようなことに注意して書かれていますか。Tさんが注意したことを説明した内容として適切でないものをあとのア～ウから一つ選び、記号を○で囲みなさい。

【下書き】

夢を実現する

【清書】

夢を実現する

- ア 仮名は漢字よりも少し小さくなるようにした。
- イ 行の中心をそろえ、書体を行書に統一した。
- ウ 用紙の上下に余白を取り、字間を均等にそろえた。

(注) 畦 田と田との間に土を盛り上げて作った土手。

パラポラアンテナ 簡易放送の受信などに使われる、おわんのような形のアンテナ。

1 次のうち、本文中の①、②に入れることばの組み合わせとして最も適しているものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア ① 見えています ② 咲かせているかのよう
- イ ① 見えています ② 咲いているかのよう
- ウ ① 見せています ② 咲かせているかのよう
- エ ① 見せています ② 咲いているかのよう

光がふんだんに届きます。福寿草はほかの植物が活動を始める前に芽を出し、葉が出る前に大急ぎで花を咲かせます。というは、ぐずぐずしては木々の葉っぱが芽吹いて林の中に光があまり当たらなくなってしまふから。光が不足すると、種をじゅうぶんに育てることが出来ません。葉や茎が出てくるのは半月も後になってからです。

けれども早春には、花粉を運ぶ虫はなかなか来てくれません。それに、福寿草には蜜がないのだそうです。そこで、花びらをパラポラアンテナのような形に広げて光を集め、花の中を暖かくして、寒さにふるえる虫を誘うのです。光沢のある花びらは光をよく反射して、花の中は、外に比べて、十度も高いと書いてある本もありました。 A

福寿草は、暖かい午前中に花を咲かせ、虫が来るのを待って、ひと月近くも咲き続けます。 B けれども、暖かい日だけではありません。 C そんなときは、花を閉じて、じっと寒さに耐えているのです。

福寿草の必死に生き抜く知恵を知るうちに、ただかわい、きれいと見ていた花の世界が、違って見えてきました。

(大橋獅子「すてきなあなたに」による)

3 次のうち、返り点にしたがって読むと「善」に従ふこと流るるがごとし。「の読み方になる漢文はどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 従<sub>コト</sub>善<sub>ニ</sub>如<sub>シ</sub>流<sub>ル</sub>
- イ 従<sub>コト</sub>善<sub>ニ</sub>如<sub>シ</sub>流<sub>ル</sub>
- ウ 従<sub>コト</sub>善<sub>ニ</sub>如<sub>シ</sub>流<sub>ル</sub>
- エ 従<sub>コト</sub>善<sub>ニ</sub>如<sub>シ</sub>流<sub>ル</sub>

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

寒さがゆるんだある日、ちょっと遠くまで散歩しました。お日さまの光があたたかく、気持ちのいい日でした。冬枯れの景色もまた素敵です。枯れた草は日の光を受けてはっこり暖かそうですし、春を待つ枝々の先はふくらみつつあります。

① 日当たりのいい畦には、オオイヌノフグリの小さな青い花が、金平糖のように散らばっていました。この季節に花を咲かせているのは、この花くらいかな、と思っていれば、庭のあるお宅の生垣のあいだから、黄色い花が見えてきました。光沢のある花びらが、パラポラアンテナのように広がって光を受けています。葉も見えず、花だけが、庭の地面から直接 ② 。

福寿草でした。 どうして福寿草は、突然 花を咲かせた姿を見せるのか、いつも不思議に思っていました。調べてみると、福寿草が、いきなり花を咲かせるには、ほんとうに涙ぐましいわけがあるのです。 野生の福寿草が咲くのは、早春の林の中。まだ木々には葉がなく、地面には

2 本文中には次の一文が入る。入る場所として最も適しているものを本文中の A ～ C から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ときには雪が舞い、冬に逆戻りする。こただってあります。

3 福寿草の必死に生き抜く知恵とあるが、福寿草の必死に生き抜く知恵について、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。 a に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、本文中から十二字で抜き出し、初めの五字を書きなさい。また、 b に入る内容を、本文中のことばを使って十五字以上、二十五字以内で書きなさい。

○ 光が不足すると、種をじゅうぶんに育てることが出来ないのに、  
a よりも前に芽を出し、葉や茎を出すよりも先に花を咲かせる。

○ 早春には花粉を運ぶ虫がなかなか来ないうえに、福寿草には蜜がないので、パラポラアンテナのような形に b ことによつて虫を誘う。

三 次の【本文】と、その内容を鑑賞しているAさんとBさんとの【会話】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【本文】

兄にかくして坊主餅を焼き、二つに分け、両の手に持ち食せんとするところへ、人の足音を聞き、畳のへりを上げ、あわてて半分をかすに、はや兄見付けたり。坊主、赤面しながら、「今程の有様をおもしろく歌に詠みたらば、<sup>①</sup>振る舞はん」といふに、

山寺の畳のへりは雲なれやかたわれ月の入るをかくして

(注) 畳 = ここでは、わらなどで編んだ薄い敷物のこと。

鈴木棠三 『醒睡笑(下)』

【会話】

Aさん 餅を焼いていた坊主は、どのようなことに対してあわてたんだろう。Bさん ② ことに対して、坊主はあわてたんだよ。そして、畳のへりを上げて餅の半分をかくしたんだ。あつという間に、兄に見つけられてしまったけれどね。  
Aさん なるほど。それで坊主は恥ずかしがりながら、今の状況をおもしろく歌に詠むことができれば、餅を振る舞おうと兄に言ったんだね。  
Bさん そういうことだよ。この時に兄が詠んだ和歌では比喩表現が使われているよ。二つに分けた餅のうちの一つをかくす畳のへりが、半月をかくす ③ にたとえられているね。  
Aさん とっさに詠んだ和歌の中で、こんな比喩表現を使えるなんて、兄はすごいよ。きっと餅を食べることができただろうね。

1 振る舞はんを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

一方、直した句は飛行機から見下ろしているのはあくまで地上の街です。作者は密集した住宅の屋根を眺めながら、「どの家も冬支度で忙しいのだろうな」と想像する。つまり、もとの句では「冬支度」は地上の説明でしかありませんが、直した句では作者が想像するものになります。このほうが一句のリズムも整います。

なぜ、このような変化が生まれるのか。それは「の」をとることによって、ここに小さな切れが生まれ、この切れもたらず「間」によって「雲間から見下ろす地上」という事実から「冬支度」という想像の世界への転換が起こるからです。「一」字をとるだけのことですが、それによって「冬支度」という言葉の質と句の構造が変わる。それが句に静かさや深みをもたらすのです。

(長谷川権 『億人の「切れ」入門』による)

1 次のうち、着陸と熟語の構成が同じものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

- ア 降車    イ 海底    ウ 増加

2 これが違うとあるが、もとの句と直した句との違いについて、本文中で筆者が述べている内容を次のようにまとめた。a、b、cに入れるのに最も適しているひょうごを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、a は六字、b は五字、c は九字で抜き出すこと。

もとの句は、飛行機の窓から a 地上の街を見下ろしているという散文的な内容であり、「冬支度」は b ではないが、直した句では、飛行機の窓から見下ろしているのはあくまで地上の街であり、「冬支度」は c となる。

2 次のうち、【会話】中の ② に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア みんなで食べようと思って坊主が餅を焼いたら、兄がそれらを独り占めしようとした

イ 坊主がかくれて餅を焼こうとしているのを兄に気づかれてしまい、他の人に言いふらされた

ウ 坊主が兄にかくれて餅を焼いて、二つに分けて食べようとしている時に人の足音が聞こえてきた

3 【会話】中の ③ に入れるのに最も適していることばを、【本文】中から抜き出しなさい。

四 次は、大字で俳句を教えた筆者が書いた文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

この前、ある学生がこんな句を出しました。

雲間から見下ろす地上の冬支度

飛行機に乗って冬支度の進む地上を見下ろしているところですよ。<sup>①</sup>着陸するとき、住宅地や商店街がすぐそこに見える羽田や伊丹のような飛行場を想像すればいい。

この句は入選したのですが、一つ指摘したことがあります。それは「地上の冬支度」の「の」です。この「の」がはたして必要かどうか。仮に「の」をとってしまっても、次のようになります。

雲間から見下ろす地上冬支度

「なんだ、もとの句と同じじゃないか」と思うかもしれませんが、<sup>②</sup>これが違う。どう違うかというと、もとの句は飛行機の窓から冬支度の進む地上の街を見下ろしているという、いわば、散文的な(つまり説明的)内容です。

3 この文章を授業で読んだSさんは、「俳句の切れによる効果」について発表することになりました。次は、Sさんが書いた【発表原稿の一部】です。

【発表原稿の一部】

俳句の「切れ」とは、句のつながりや意味が切れる部分のことであり、句の調子を整えたり、感動や印象を深めたりする効果があります。本文では、もとの句から「の」をとることで生まれた a がもたらず「間」によって、直した句の中では、b が起こり、その結果、句に静かさや深みをもたらされるといふことが述べられていました。

実際に、私はこの句を音読した時、「雲間から見下ろす地上」と読んでいたあと、自然と一呼吸おいてから「冬支度」と読んでいました。この一呼吸が、「雲間から見下ろす地上」から「冬支度」へと、句の世界観が切りかわる瞬間を意識させたり、世界観の広がりを感じさせたりすることに気づきました。私はこれが「切れ」による効果であると考えました。

みなさんも、このように俳句の「切れ」を意識して、様々な俳句にふれてみませんか。

1 【発表原稿の一部】中の a に入れるのに最も適しているひょうごのことばを、本文中から五字で抜き出しなさい。また、b に入る内容を、本文中のことばを使って十字以上、十五字以内で書きなさい。

2 次のうち、【発表原稿の一部】にみられるSさんの工夫を説明したものとして適切でないものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 発表の内容を明確にするために、本文で述べられていた内容と自分の考えを分けて述べている。

イ 発表の内容に興味を持ってもらうために、本文を読んで疑問に思ったことを聞き手に問いかけている。

ウ 発表の内容をわかりやすく伝えるために、本文で述べられていた内容と句を音読した自分の体験を結びつけながら説明している。

受験番号 番

得点

○

○

| 一 |   |      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|---|---|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 3 | 2 | 1    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| ア | ア | (10) | (9) | (8) | (7) | (6) | (5) | (4) | (3) | (2) | (1) |
|   |   |      |     |     |     | ――  | ――  | ――  | ――  | ――  | ――  |
| イ | イ | シヨウ  | テイ  |     | ヒロ  | 移   | 浴   | 銭   | 雑   | 並   | 約   |
| ウ | ウ | ブ    | ン   | ガワ  | う   | ――  | ――  | 湯   | 誌   | 列   | 束   |
| エ | エ |      |     |     |     | す   | びる  | ――  | ――  | ――  | ――  |

|     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |        |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|
| /12 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | /1 | 採点者記入欄 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|

| 四   |     |    |   |   |   |   |   |
|-----|-----|----|---|---|---|---|---|
| (2) | 3   |    |   | 2 |   |   | 1 |
|     | (1) |    | c | b | a | ア |   |
| b   | a   | イ  |   |   |   |   | ウ |
| ア   |     |    |   |   |   |   |   |
| イ   | 15  |    |   |   |   |   |   |
| ウ   |     | 10 |   |   |   |   |   |

|     |    |    |    |    |    |    |    |        |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|--------|
| /16 | /2 | /4 | /2 | /2 | /2 | /2 | /2 | 採点者記入欄 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|--------|

| 三 |   |   |
|---|---|---|
| 3 | 2 | 1 |
|   | ア |   |
|   | イ |   |
|   | ウ |   |

|    |    |    |    |        |
|----|----|----|----|--------|
| /7 | /3 | /2 | /2 | 採点者記入欄 |
|----|----|----|----|--------|

| 二  |                |  |  |   |    | 2 | 1 |
|----|----------------|--|--|---|----|---|---|
| 3  |                |  |  |   | a  | A | ア |
| b  |                |  |  | B |    |   |   |
| 25 | ことによつて         |  |  |   | 15 | C | ウ |
|    | パラボラアンテナのような形に |  |  |   |    | エ |   |
|    |                |  |  |   |    |   |   |

|     |    |    |    |    |        |
|-----|----|----|----|----|--------|
| /10 | /4 | /2 | /2 | /2 | 採点者記入欄 |
|-----|----|----|----|----|--------|